



ゆとりの会だより

西東京ゆとりの会（認知症の家族会）会報

2020. 3月

ゆとりの会の皆さん、こんにちは。お元気ですか？ 2月も暖冬傾向となりましたが、新型コロナウイルスの感染は広まるばかりで心配です。風邪、インフルエンザ予防のためにも手洗い、うがいを励行しましょう！そして、免疫力を付けることも大切、しっかり食べ、しっかり睡眠も取りましょう！

さて、2019年度は、12月の会より、会の始めからテーブルを3つに分けて行っていますが、皆様いかがでしたでしょうか？来年度に向けて、何かご意見、ご要望がありましたらお聞かせください。宜しく願います。それでは3月もお待ちしています。

3月のゆとりの会のお知らせ

日時 3月11日（水）午後1：30～3：30
場所 田無公民館2階 第一学習室
内容 懇談、情報交換



3月のゆとりの会は中止です。

<2月の会より>

◆会長より；1月は、新年会でしたので、定例会は久しぶりです。今日もテーブルを3つに分けて行い、介護中の方のお話を伺ってから、3つのテーブル毎のお話合いになります。

◆田村より；①2月1日、「若年性認知症の医療とケアの実践と社会参加について」、2月6日、「うつ病と音楽療法」、2月8日「高次脳機能障害を知る」の講演会に行ってきた報告をしました。「うつ病と音楽療法」の講演会には、ゆとりの会の方も多く来ていて、音楽療法の先生のご指導で歌を歌ったり、簡単な楽器の演奏もあり、楽しい講演会でした。

「高次脳機能障害を知る」の講演会では、「高次脳機能障害」とは、脳卒中や交通事故による脳損傷により起こる障害と知り、認知症とイコールではないのですが、その症状は、私たちが介護する時、直面する症状があることがわかりました。記憶障害を始め、失行、失認、遂行機能障害、地誌的障害（よく知っている場所でも迷う）、半側空間無視（片側だけ気付かない）などです。②介護中という札の紹介。③西東京市認知症カフェガイドのパンフレットの紹介（現在12か所）。④情報ファイルの回覧をしました。

<介護中の方のお話>

◆奥様が入院中のご主人からは、心配なお話がありました。1月下旬、奥様の調子が良いので、その日の午前久しぶりに浴槽入浴し、出てきた時も穏やかで良かったのですが、昼食時になると、奥様は箸も持てず、立つことも出来ず、車椅子の生活になってしまったとのこと。食事流動食となり、ご主人は気落ちされていました。歌だけは、調子のよい時は3～4曲歌われるとのことでした。（音楽の力でしょうか？）

◆ご主人を介護中の奥様は、主人の認知症は、進んでいるのかな？と思うが、怒らないようにしているとのこと。食事の時、スパゲッティの食べ方を忘れていたり、私のやり方を見て、調味料をかけている。地誌的障害なのか？いつものスーパーでも迷う。体は元気なので、普通に見れば普通、お風呂も一人で入る。音楽、落語も好き、共通の趣味で、楽しい会話もするとのこと。奥様自身は、足や腰が痛いので、痛みを我慢して対応していると腹が立つそうです。まずご自身のケアも大事ですね。

◆久しぶりにいらした、ご主人を介護中の奥様は、数年前、ゆとりの会に来た時より私のスキルも上がって、介護の対応がうまくなった。説得しようとするのは間違っていた、こちら（主人との）付き合い方が分かってきたとおっしゃっていました。

◆奥様を在宅で介護されていたご主人は、昨年秋、奥様がデイサービスから帰って来た時、転んで腰を骨折し入院、その後、オムツの交換なども大変になり、施設を捜し、1月半ば有料老人ホームに奥様は入所出来たとのことでした。ところが、その後、ご主人が、ベッドから転んで頭を打ち救急車で入院されたとのこと。MRIなどの検査は大丈夫だったそうです。今までのお疲れも出たようですが、この日は午前中、男の料理教室に参加された後、ゆとりの会にも駆けつけて下さいました。お体大切にして下さいね。

<3つのテーブル毎のお話の後で>

■会員の一人から、「友達の中には、親の介護をしている人が多い。母親を施設に預け、イタリアで暮らしている友達（女性）は、母親が食べられなくなり、入院。このままでは1、2週間の命と言われ、胃瘻にして2年経つ。ほぼ植物状態で友達は後悔している」という話がありました。

■その後、会員から、延命治療の話、胃瘻の話があり、胃瘻については、経験者から様々な立場での話がありました。「母は、胃瘻にしたが、私は良かったと思う、後悔は無い」「主人はまだ68歳と若かったので、胃瘻にして6年生きた」「義母は、まだ話も出来たので、胃瘻にして5年生きた」といった経験談があり、「やって良かったかどうか迷った」という声もありました。

■他にも終活の話やAIロボットの話も出たようです。今後もお喋りしていきましょう
<編集後記>

以前の会報を見ていたら、奇しくも1年前の2月に、胃瘻の話を取り上げていました。私自身も母の胃瘻を選択する時、随分苦しみました。母は、口から食べる（嚥下）がもう辛かったようで、胃瘻にして、療養型病院に移ってからの表情は穏やかでした。延命措置の選択は、その場にならないとわからないことも。家族としては、どんな形でも、そこに存在しているのと、してないのでは全く違うのです。（文責 田村）